

① 金峰山の森 (2016年5月14日 長野県・山梨県 金峰山)



たまには百名山を一つ増やしてみてもよいのではないかと考えて、少し遠出をして長野県は佐久の金峰山まで足を延ばしてみた。金峰・瑞牆とひとくくりで語られることの多い名峰で、特徴は巨岩。男体山や太郎山のガラガラと崩れる山とは対照的にこちらはごっつりとした硬い岩山である。勾配はきつくないが、登って下って8時間という日帰りとしては長めのコースである。



写真は金峰山の中腹で撮影した。林床植生がコケ。斜面が安定している(崩れもしない)のと、霧が発生しやすい場所と考えられる。下層植生がササ、というのがデフォルトになってしまった私にとってこの光景は鮮烈だった。

水槽にウィローモスを突っ込んで、こんな水景を作ろうとしたことがあったが、見事に失敗した。やはり自然が作り出す美景を私ごときが作ろうというのが無理なのか。きれいな景色は自然の庭師に任せるのが良いのだろう。

② 巨岩 (2016年5月14日 長野県・山梨県 金峰山)



鳳凰三山の地蔵のオベリスクも見事だが、この金峰山の石舞台古墳のような岩も圧巻である。名を五丈岩という。山の硬いところは取り残されるので、このような巨岩が露出することになる。

金峰山は標高 2,599m で山頂部分がほぼ森林限界の標高である。しかし、山頂特現象（強い風が巻き、高木の樹体を砂や雪片で傷つける）により、山頂周辺はわずかに高山の様相を呈する。写真の緑色はハイマツである。

山頂手前で学生の団体に行き会った。最近山ですれ違うのは、私のような単独行者、カップル、子連れ、若手の社会人が数人といったような人が多いように思う。10年前は中年ばかりだった。時代の流れを感じる。





③ コメバツガザクラ (2016年5月14日 長野県・山梨県 金峰山)



おそらく、山頂にたどり着いた人の誰も気にも留めなかつただろう。山頂部には、ほんのわずかであるが高山植生があり、ガンコウラン、ミネズオウ、コメバツガザクラ、コケモモという高山のハイマツ袖から風衝地に生える植物たちが一通りそろっていて、私は一人で勝手に感動していた。ここは沖ノ鳥島級に貴重な高山植物の離島である。

写真はコメバツガザクラの花である。コメバツガザクラの葉はコケモモによく似ているが、コケモモよりずっと小さく、米っぽい。葉が米っぽいからコメバツガザクラ。よく高山の石の隙間にみっしりと生えている、そういう健気な植物だ。あまり注目されることはないが、ライチョウの生息域にはよく出てくる。硬い硬い葉を作ることで、強烈な風と氷の刃、砂のつぶてから身を守り、塹壕に立てこもるがごとく石の隙間を埋めていく。私が尊敬している高山植物の中でも五本の指に入る(たぶん)。

彼らは氷期に日本にやってきて、その後何度も氷期と間氷期を繰り返し、運よく山の先の方で生き残っているが、その昔は日本列島のどこを見回しても(今でいうところの)高山植物が至る所に生えていたはずである。私たちのずっとずっと先輩なのだ、

もっと高山植物のことを敬ってあげてほしい。



④ 山の落とし物 (2016年5月14日 長野県・山梨県 金峰山)



そういえば。私はエコピープルである(エコ検定に受かった人のことを、エコピープルと呼ぶ)。したがって、地球を守るための活動をしなければならない、ということで、以前からやってはいるが、登山道上のゴミ拾いを強化することにした。



山話として「もう、ゴミ落とすなんて信じらんない!」という方は多い。そんな人に私はこのように言っている。「あのね、年食ってくると、手元が危ういの。あと、記憶も。うっかりね、飴の包み紙落としちゃうこともある。自分だって、きっと落としてる。だから、気が付いた時だけでいいからさ、拾ってあげてよ」

タバコのフィルター。きっと、遭難しかけていて、気分を落ち着かせるために吸ったに違いない。

マスク。たぶん、金峰山のフレッシュな空気により、ここで風邪が治ったんだと思う。



ペットボトル(ミネラルウォーター、中身入り)。最近、よく見かけるのがこの中身入りペットボトル。ザックの外ポケットなどに入れていたり、ペットボトルをつりさげるような器具を使用して外付けするために、このように落ちていると思われる。生死に関わるので気を付けてほしい。

今後も、珍奇な山の落とし物があればご報告したい。